

学校経営のポイント

信義則と平和外交を支える“学力”

若井 彌一

今に始まったことではないというものの、個人間の争い、集団（組織）間の争い、そして国家・地域間の争い、と現実の世の中は争いごとに満ちている。国家・地域間の争いが「武力」（軍事力）紛争にまでエスカレートしてしまった場合には、通例、多数の犠牲者が発生する。

“信義則を実行する学力”の育成

民法第1条では、第1項で「私権八公共ノ福祉ニ遵フ」ことを確認したうえで、第2項では「権利ノ行使及ヒ義務ノ履行ハ信義ニ従ヒ誠実ニ之ヲ為スコトヲ要ス」と、私権（公権に対する概念）に関しての通称「信義誠実の原則」（つめた表現として、信義則）を確認している。

この信義則とは、国民が社会生活をしていくうえで、関係するさまざまな人々との関係において、一定の条件または状況のもとで、相手方が抱くであろう正当な期待（その意思表示としての要求）に適正に対応するように行うことを意味する言葉である。

信義則の内容（行為として、なにを、どのように行うべきか）は、当然のことながら、単純なものから複雑なものまで多数の階梯構造を形成している。「愛」と「誠」は、この信義則を実行していくための重要条件であるが、「学力」も不可欠である。

意図的に違法な行為をすることにより、他人に不利益を強いる犯罪だけでなく、利害関係が複雑に絡み合っている今日の社会においては、結果的に他人に不利益を強いることになってしまうことも珍しいことではない。信義則の内容を、発達段階を考慮しながら、児童・生徒に教育活動を通して身につけていくことは、各学校の基本的な教育課題の1つである。

平和外交を支える国際関係理解力の育成

「内憂外患」は、国内の心配事と国際上の心配事を合わせ表現したものである。視野を拡大してみると、わが国の現状は、この状態にある。

「われらは、いつれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならない」という国際政治・外交上の理想（憲法前文では、「政治道徳の法則」という表現を用いている）は、時として巧妙に、また時として理不尽な屁理屈を理由に、半ば公然と破られる。

日・中、日・韓、日・露、さらには日・朝関係のどれをとってみても、暗礁に乗り上げてしまっているという印象が強い。自分（私的であれ、公的であれ）の意に反する相手方を一方的に非難することは簡単であるが、それでは国際外交の建設的な進展を期待することができないことはわかりきっている。

比類なきまでに徹底した国際協調・平和外交主義を宣言している現行憲法の理想を掲げて、今後とも、世界の中のリーダー的存在として「名誉ある地位」を維持していくためには、「教育の力」により、児童・生徒の地力を鍛えていくことが不可避の課題である。

学校教育がその課題のすべてを担うものではないとしても、その課題を自覚した各学校における現実の国際社会に関する児童・生徒（学生を含む）の豊かな理解力の育成への挑戦が望まれる。

（わかい・やいち = 上越教育大学教授・附属小学校長併任）

...本紙は、購読料不要です。配信の中止・FAX番号変更等をご連絡くださる場合は、抹消・登録に必要な【あて先/新旧のFAX番号】を必ずご明記ください。
なお、本紙はEメール配信も行っております。
http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp/kenshu 参照。

●新刊案内●

好評発売中！

教育開発研究所刊

新年度の経営課題を多角的に徹底分析！ 菱村幸彦【監修】B5判 280頁・定価 2625円

教職研修'05 情報版

《座談会》義務教育費国庫負担制度のゆくえと義務教育改革
《学校の危機管理》新潟県中越地震の教訓
《5肢択一演習》資料から読み取る学校経営課題 ほか

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488 をご利用ください（24時間受付・即日発送）